

---

2019年9月19日(木) 国崎 たて釣り 功成丸 ツレと  
 中潮:旧8/21 干潮 02:18(55cm) 満潮 08:34(194cm) 干潮 14:19(82cm) 鳥羽  
 真史 ワラサ 1尾 カンパチ 1尾 ハマチ 2尾 ウッカリカサゴ 1尾  
 ツレ ワラサ 1尾 カンパチ 1尾  
 ワラサ 68cm・65cm カンパチ 45cm・42cm ハマチ40cm ウッカリカサゴ34cm

---

1時30分 起床	5時15分 出船
2時00分 出発	8時34分 満潮 (鳥羽194cm)
4時00分 現地着 高速・コンビニ	11時15分 納竿 沖上がり
5時00分 釣り座抽選 集合時刻と言われた時間	12時00分 帰路 現地出発

【料金】 乗り合い 10,000円 仕掛け、氷付き 釣り座は抽選  
 高速 往路 深夜割引 ¥2,000 復路 ¥2,800

【仕掛け】 電動リール リーダー5m 竿受け おもり 80号  
 ※魚を絞めるためのゴム手袋 針を外すためのペンチ  
 活かしておいたベイトを生け簀からすくうためのタモ  
 サービスの仕掛け ハヤブサ製

【様子】

- 天気予報を見て予約しようとネットで確認した。9/19午前中のたて釣りがなくなっていた。お客さんがいないようだ。念のために、電話したところ、たて釣りの乗合船を出してもらえることとなった。当日のお客さんは4人だったので、2人増えたことになる。
- ところが、風が強く、うねりがあると天気予報が変わった。予報通り、当日は、天気は晴れ、白波が立ち、うねりもあった。
- 午前5時出船であったことから、午前3時30分に酔い止めを飲んだ。二人とも、釣っている間、眠気は襲ってきたが、酔うことはなかった。
- 釣り座は抽選だが、客が4人だったことから、自由に選ぶこととなった。接岸している左舷で、揺れの少ない胴に入った。ワラサがかかると走り回るから、二人の間を広く取るようにと指示があった。
- 船長からベイト(アジ・サバ)の棚と水深のアナウンスがある。後半は「35m(30m)から底まで。水深40m」というが多かった。「根掛かりに気をつけて」ともアナウンスがあった。
- 一投目。ベイトの棚まで仕掛けを落とすや、錘が沈んでいかない。巻き上げると30cmくらいのサバがすべての鉤にかかっていた。すべて外して再度投入。同様の結果となった。上のサバを外して下2本は生きたサバを付けたまま、投入した。
- しばらくして、当たりがあった。ワラサをゲットした。こんな大きなサバを食ってくるのだと感心した。船長の手助けがあり、ばらすことはなかった。
- その後、サバがかからない状態となった。生け簀には活かしておいたサバは2尾だった。これを掛けて投入。サバの棚やワラサを掛けた水深を忘れてしまった。水深は後半より深かった。70mくらいだっただろうか。
- 2尾あるサバのうち、1尾を掛けて落とし込んだ。さかんに暴れる。当たりらしきものかなという強い引き。その後、竿先に動きなし。サバが外れていた。
- 最後のサバを掛けて投入。さかんに暴れる。ふっとラインがふけた。当たりなのか、サバがたくさん掛

かったのかという感じだった。糸ふけを取っていたら、ふっと重さがなくなった。回収したら、仕掛けがすべて取れていた。リーダー先のスナップサルカンは残っていたが、その先がすべてなくなっていた。サバが大量に掛かっていたとしても、しっかりと巻き上げれば良かったと後悔した。

- 仕掛けがなくなったので、持参した使い古しを使った。
- ツレは掛けたベイトのサバを使っただけのませ釣りをすることとなった。仕掛けは船長が貸してくれた。しばらくして、ワラサが掛かった。
- そのワラサを取り込んで移動となった。8時30分潮止まりの時刻であった。
- 移動後、水深は浅くなった。「ベイトの棚は35mから底まで。水深は40m。根掛かりしやすいから気を付けて。」とアナウンスがあった。ベイトの棚は30mから底までのときもあった。
- ベイトが掛かりにくい。ベイトは18cmくらいのアジである。2回ほど当たりらしきものがあったが掛からず。仕掛けの鉤がなままっていると考え、船上で購入した。(¥500)
- 仕掛けを交換してすぐに当たりがあった。しばらく待つが掛からない。底でも待つが当たらない。ベイトが掛かっていることは分かる。ベイトを鉤にしっかり掛けるために仕掛けを回収した。スレ掛かりだった。アジを鼻掛けして再投入した。
- 底で待つことにした。ふわっと糸がふけた。当たりかな、当たりかなと思いながら、糸ふけを取っていくと、魚影が見えた。ハマチだった。あまり引かなかった。
- ベイトのアジが掛からない。ベイトの上の棚から2mずつ落として待つ。底から2mずつ巻き上げて待つ。待つ間、竿を振り上げて誘いを掛ける。色々試すが、なかなか掛からない。
- 仕掛けを回収して改めて投入するときベイトの当たりがあることに気づいた。ベイトの棚へ直接仕掛けを落とし込むことや仕掛けの長さを考えて、例えば、棚が30m(35m)から底までのときは、仕掛けを32m(37m)まで落としてみた。これで掛かることがあった。また、「イカ釣りの時、イカが掛からなければ、イカの視界からスツテを外してもう一度棚まで落とす。」ということの思いだし、鉤をベイトの視界から外すために水深20mくらいまで巻き上げておいてから、32m(37m)まで一気に落とすということも試みた。これで掛かることがあった。イカもベイトも上から落ちてくるものに興味を示すということだろう。
- 水深37mでベイトが掛かった。ベイトの追い食いと本命の当たりのためにしばらく待った。変化なし。底までゆっくり落とした。根掛かり注意ということだったので、着底後すぐに1m巻き上げた。それでも船の揺れや底の起伏でおもりが底をたたくときがあり、更に1m巻いた。結局、38mで底を切ることができた。しばらく待つが当たりがない。2mずつゆっくり巻き上げることにした。巻き始めたときに当たりがあった。結構、引く。他のお客さんの仕掛けを絡めて上がってきた。そちらにもハマチが掛かっていた。船長がタモですくってくれた。仕掛けはクチャクチャになったが、船長が上手く外してくれた。
- ハマチが弱っているのを締めることにした。その前に、仕掛けを37mに落として置き竿にした。
- ハマチを締めている用意をしていたとき、本命の当たりに合わせを入れているツレの姿が見えた。タモを持ってツレの方に近づいた。自分の置き竿を見たら、竿がぐいぐいとしなっていた。船長に助けを求めてから、竿のところに戻った。結構、引く。ツレがカンパチを上げた。自分もカンパチだった。
- チャンスだ。もう一度、仕掛けを37mに落とした。しかし、当たらず。しばらくして、「これで終わります」と突然アナウンスがあった。納竿となった。出船は5時15分、納竿は11時15分だった。ちょうど6時間だ。

#### 【リーダーを5mつける】

- 真史用のシーボーグ300J                      フロロ6号3.5ヒロ(5.6m)
- ツレ用のビーストマスター3000XP              フロロ7号2.5ヒロ(4m)
- リーダーの太さの違いは、PEラインとリーダーとの結び目が竿ガイドを通る太さが違うため  
真史：YOIKABB7:3      ツレ：ライトゲーム モデラート  
PEラインとフロロとの結び方は、誠哉ノット風である。
- ① リーダーで輪を作り、輪にリーダーの先を3回通す

→ 2回しか通さなかった。3回というのを忘れていた。

- ② リーダーでPEラインを3回くぐらせる。
- ③ PEラインの先を内掛け結びの要領で輪に10回くぐらせる。
- ④ ゆっくり締める。

○前はリーダーの輪に3回通し:66cmワラサも60cmカンパチも切れることはなかった。

○今回はリーダーの輪に2回通し:68cmワラサでも切れることはなかった。

### 【ドラッグ】

○ドラッグは手で強くギュッと引っ張って出る調子とした。これでよい。これでもワラサではドラッグが滑った。

○以前の記録

「ブリが釣れていたことから、ラインをきつく引き出したときにドラッグが滑るように調節した。」

### 【仕掛けのリユース】

○前回の記録から : 仕掛けが切れた後、前回のサビキを使用。それでも釣れた。

○今回は、ベイトの活性が低く、ベイトが食ってこない。ベイトの当たり数回に鈎掛かりしなかったことから、船上で仕掛けを購入した。

○以前、キス釣りで釣り初めから使い古しを使ったことがある。鈎掛かりが悪かったことから、初めから使うことは止めた。たて釣りも同様。ベイトの掛かりが悪い仕掛けを使って釣れないのは面白くない。新しい仕掛けがないのなら、船上で買うべきである。

○リユースについて考えた。終了時刻まであまり時間がないときは、新品を使うのは少しもったいない気がするので、使い古しを使う。または、新品を使って、それをとっておき、同様の状況の時に使う。使い古しは鈎先を研いでおく。

### 【ベイトを掛ける】

<以前の記録から>

○ベイトの棚まで仕掛けを一気に落とす。ベイトが掛からなければ2mずつ落として待つ。下の棚まで来ても掛からなければ、上の棚まで2mずつ上げて待つ。

○これで良かった。待つて掛からないときに、竿を振り上げたり、細かく揺すったりしても掛からなかった。

○今日は「ベイトの棚は30mから底まで。水深40m。」ということが多かった。ベイトが掛からないとすぐに仕掛けを上げたり下げたりしなければならなかった。

<今回>

○ベイトの棚の中心へ直接仕掛けを落とす。

○ベイトが掛からなければ、棚から10mくらい巻き上げてから、もう一度、棚の中心まで落とす。

### 【ベイトが掛かった】

<以前の記録から>

○今日はベイトが底付近であったことから、

① 少し待つ

② 底から1~2mで待つ。置き竿のときは根掛かり対策をかねて、3m上で待った。

<今回>

○後半はベイトが底付近であったことから、前回と同様で良い。

○前半の記憶がない。

【「ベイトが掛かれば絶対釣れる」】

○ベテランさんが「ベイトが掛かれば絶対釣れる」と言っていた。そのベイトが掛かりにくかった。ベイトが掛からないときは、掛かったベイトを活かしておき、それを付けて落とした。これで釣れた。ベテランさんの言うとおりだった。

※次回に向けて 実践記録を読んでから釣行すべき。

